



Title	「吉田巖遺稿資料」所収の台湾関係資料：概要と目録
Author(s)	北村，嘉恵
Citation	教育史・比較教育論考，21，87-116
Issue Date	2014-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55054
Type	departmental bulletin paper
File Information	AN00057796_21_3.pdf



「吉田巖遺稿資料」所収の台湾関係資料：概要と目録

北村嘉恵

《目次》

はじめに

資料目録

I 文書 / II 図書・雑誌 / III 書翰 / IV 名刺 / V 新聞記事 / VI その他

はじめに

1. 本稿の目的

本稿は、北海道の虻田、平取、帯広等を拠点としてアイヌ児童の教育やアイヌ文化・郷土史の調査研究に従事した吉田巖(1882～1963年)¹が遺した膨大な資料群のうち、台湾に関わる資料を整理・紹介するものである。

吉田巖による記録・著作と吉田巖関連文献の全容、および、吉田巖関連資料の整理・保存・公刊の状況については、小川正人編『吉田巖書誌』(2008年)が俯瞰的に整理しており、吉田巖関係文書を体系的に把握する助けとなる²。このうち帯広市図書館が所蔵する「吉田巖遺稿資料」³(以下、「遺稿資料」と略記)については、長年にわたり資料の整理・翻刻・公刊事業が継続されており、吉田巖の多面的な活動を詳細に記した年譜類や1895年から1940年にわたる日記など、重要な資料が『帯広市社会教育叢書』『帯広叢書』(以下、あわせて「帯広叢書」と略記)として利用可能となっている⁴。

一方、吉田巖の台湾との関わりについては、アイヌ教育実践史の一環として吉田の台湾学事視察旅行(1927年5月27日～6月30日)に着目した竹ヶ原幸朗の先駆的な著作がある⁵。アイヌ学校の教員である吉田が視察の対象として植民地台湾の先住民学校を選び、同時に函館の「貧民学校」や大阪の「部落学校」をも視察先に加えたことに注目した竹ヶ原は、「被抑圧民衆・民族をトータルに把握する視点」からアイヌ教育の思想・実践を検証することの必要性を指摘している。

「遺稿資料」にはこの台湾学事視察旅行に関わる多彩な資料がまとまって残されていることが特長のひとつである。旅行前後にわたり吉田が書き綴った詳細な手記はもとより、関係者と交わした公私文書や視察先で入手した学校資料等の中には国内外の他機関では確認できないものが数多く含まれている。これらは、狭義の台湾史研究にとって貴重な資料群であるにとどまらず、竹ヶ原が示した視座を引き継ぎながら歴史認識・叙述を深化させていくための手がかりとなるはずである。

このほか、渡台した同窓生・同郷者(相馬中学校卒業生、福島県出身者)や帯広に吉田を訪ねた台湾関係者(台湾在勤の官吏・教員や研究者等)と交わした書翰や名刺等も貴重である。たとえば、佐山融吉⁶や安倍明義⁷など台湾先住民の文化・言語の調査研究に携わった人物や、山本英雄⁸など先

住民教育に従事した人物との通信の中には、これまで知られていなかった情報も含まれている。「遺稿資料」の資料群全体が、帯広を定点として東京や朝鮮、中国東北部を含む帝国内外の人的つながりや情報の流通をうかがう興味深い記録となっているだけに、その分厚い資料群の中で台湾関係資料を吟味・読解できることも大きな魅力である。

既往の研究において、アイヌ政策と台湾先住民政策との類似性が指摘されることはあったけれども、資料の乏しさと資料吟味の乏しさがあいまって短絡的な指摘にとどまっている感を否めない。吉田巖が集積した資料群の詳細な資料目録を公刊することにより、研究基盤の整備を進めたい⁹。

2. 資料の概要

「遺稿資料」中の台湾関係資料は、その来歴によりおおまかに分類すれば、前述した台湾学事視察旅行に関わる一連の資料（公文書、手記、書翰、学校文書、証票、帰道後の講演原稿等）のほか、台湾在住の同窓生・同郷者との通信（書翰、会誌『相馬郷』等）や、吉田のもとを訪れた台湾関係者との交流の記録（名刺、書翰、児童作品等）、吉田が関わっていた東京人類学会や啓明会の活動に関わる記録や刊行物等からなる。また、吉田が長年にわたり綴っていた日記や稿本類、新聞記事切抜、資料目録¹⁰の中にも、台湾関係の情報が含まれている。これらは相互に関連した記録となっており、相参照して理解を深めることが可能である。たとえば、台湾視察旅行の後に公刊した『台湾学事調査復命書（写）』（清田印刷所、1927年）、『台湾の旅』（清田印刷所、1927年）、および28年間にわたるアイヌ学校教員としての体験記をとりまとめた『心の碑』（北海出版社、1935年）の一部は、台湾で入手した諸資料および手記をもとに著されており、これらをつきあわせて読解することによって浮かび上がる興味深い点もある。

現在これらの資料は、その資料形態により文書、封書、はがき、絵はがき、名刺、写真、図書、雑誌等に大別され整理・保存されている。前掲『吉田巖書誌』でも指摘されているように、いわゆる資料の原秩序や原形を判別することが困難な状態にあり、台湾関係資料についても一連の資料だと推定されるものが別件資料として分類・保存されている場合が少なくない。とはいえ、「いやしくも先生の筆になるもの巨細となく集める」¹¹という吉田巖遺稿保存会の方針のもと、メモの断片や領収書等の紙片も含めて吉田による記録や蒐集物が散逸を免れて公共機関に保存されてきたことの意義ははかりしれない。本稿では、これまでの整理・保存や翻刻・公刊の成果を土台として、資料のまとまりや連関についても留意しつつ、新たに判明した諸点については後掲の資料目録において注記することとする。

帯広市図書館以外の公共機関所蔵の関連資料としては、1927年の台湾学事視察旅行に関する新聞記事の調査を行った¹²。台湾島内発行の主要な新聞・雑誌において関連記事は確認できていないが¹³、道内発行の新聞において新たに数点の新聞記事を確認することができた。

なお、「遺稿資料」所収の台湾関係資料のうち、「帯広叢書」として公刊されているのは、日記のほかごく一部の書翰や随筆にとどまる。本稿に収めた資料目録では、「帯広叢書」所収の関連情報についても適宜注記することとした。

3. 本稿の内容

本稿には、帯広市図書館所蔵の「吉田巖遺稿資料」所収の台湾関係資料、および、吉田巖の台湾学事視察旅行に関する新聞記事の目録を収録した。目録作成にあたっては、「遺稿資料」の整理・保存状況をふまえて、文書・図書・雑誌・書翰、名刺、新聞記事、その他（写真、器物）に大別し、それぞれ資料の作成時期ないし作成者ごとに配列した。その際、これまで一件資料として括られてきた資料群の細目を作成してその全容を示すとともに、別件資料としてバラバラに保存されている資料の連関なども極力示すようつとめた。また、書簡の中で吉田の台湾視察に言及しているものや、台湾関係の絵はがきを使用したものなども、できる限り広範に載録するようつとめた。ただし、本目録に載録しえたのは、帯広市図書館作成の目録や小川正人編『吉田巖書誌』、吉田巖作成の諸目録等を手がかりとして、筆者が実際に資料を閲覧し台湾関係の人物・情報を含むと確認した資料、および、これらの目録上に記載があり今後の調査の参考になりうると考えられるものにとどまる。膨大な「遺稿資料」の全体は未確認であり、個別資料の内容に踏み込んだ調査が継続的に必要であることをお断りしておく。

「遺稿資料」の多くは、他では得難い濃密な記録である一方、プライバシーや個人の尊厳に関わる問題を含むものも少なくない。既刊の「帯広叢書」や『吉田巖書誌』においては、資料の公開にあたりプライバシー侵害のおそれのある情報は伏せるなどの配慮がなされてきた。本稿では、視察旅行関係資料をはじめ、主として公的な活動に関わると判断される記録を収録しているが、たとえば書翰の発信情報などもプライバシーに関わる事項となる。資料の利用にあたっては慎重な配慮を要する。

吉田の手記や講演原稿、公刊物の中には、台湾住民に関して、書籍や同行の案内者から得たとおぼしき当時のステレオタイプの把握や描写が散見される。また、それをもとにアイヌと台湾先住民との「類似性」を強調する叙述も少なくない。しかし、多彩で分厚い資料群の中で吉田の詳細な記録を読み解いていくと、一見目につきやすい叙述にのみ着目した議論を拒むような記録が集積されているように感じる。記録・発信の媒体や主な受け手（吉田が想定する読み手、聞き手）によって、叙述の焦点や表現がかなり異なる点も特徴である。本稿に掲載する資料目録が、アイヌ（政策）と台湾先住民（政策）とを短絡的に比較したり関連づけたりする認識や議論を再生産するのではなく、アイヌ史、台湾先住民史それぞれの研究の深化と、相互の議論の基盤形成につながることを願う¹⁴。

謝辞

「吉田巖遺稿資料」所収の台湾関係資料の目録公開について種々のご助力をいただきました帯広市図書館に、心から感謝申し上げます。

¹ 吉田巖 (1882-1963): 福島県宇多郡中村 (現相馬市) 生まれ。1903年福島県立第四中学校 (のちに相馬中学校) 卒、小学校代用教員等を経て、06年北海道へ移住、河東郡音更村・音更尋常小学校 (1906-07)、河西郡芽室村・毛根尋常小学校 (1907)、社団法人北海道日土人教育会虻田実業補習学校 (1907-10)、虻田郡・虻田第二尋常小学校 (1911)、沙流郡平取村・荷負尋常小学校 (1911-13)、中川郡豊頃村・報徳教育所 (のちに報徳尋常小学校) (1913-16)、河西郡帯広町・第二伏古尋常小学校 (のちに日新尋常小学校) (1916-31) の各学校の教員をつとめた。また、「土人保導委員」(1922-31)、北海道方面委員 (1932-46)、民生委員 (1946-49) や、帯広市史編纂委員 (1940-42, 49-52)、財団法人啓明会のアイヌ調査事業嘱託 (1919-) 等を担った。吉田巖の経歴については、小川正人編『吉田巖書誌』(北海道立アイヌ民族文化研究センター、2008年)、小林正雄・帯広市教育委員会社会教育課編『吉田巖伝記資料 帯広市社会教育叢書 No.9』(帯広市教育委員会、1964年) 等を参照。

² 前掲小川正人編『吉田巖書誌』。そのPDF版は、北海道立アイヌ民族文化研究センターの下記サイトよりダウンロードが可能である。http://ainu-center.pref.hokkaido.jp/05_002.htm

³ 「吉田巖遺稿資料」とは、1963年に吉田巖が逝去した後、遺族らが帯広市教育委員会との協議を経て帯広市に寄託し、帯広市図書館が保管している資料群である。吉田巖による日記や調査記録、稿本のほか、学校文書、書翰、名刺、写真、新聞切り抜き、図書、雑誌等を含む。

⁴ 「帯広叢書」は、1955年10月に刊行が開始され、2013年現在、No.65まで刊行が進んでいる。この間、事務担当の移管にともない、叢書名が『帯広市社会教育叢書』(No.1-15) から『帯広叢書』(No.16-65) へと改められた。帯広市図書館の下記サイトにて、全巻の書誌情報および目次の閲覧が可能である。また、前掲小川正人編『吉田巖書誌』には、「帯広叢書」所収の吉田巖関係事項の詳細な目次が載録されている。

<http://www.lib-obihiro.jp/yoshidaiwao/yoshida-sousho.html>

⁵ まとまった論述があるものとして、①「吉田巖の台湾学事調査」(『朝日新聞』1978年1月31日付夕刊)、②「吉田巖の台湾学事調査」補論」(『道歴研会報』第14号、1978年11月)、③「アイヌ教育(史)研究の視点」(『地方史研究』第29巻第5号、1979年10月)、④「近代日本のアイヌ教育 ―同化教育の思想と実践」(『北海道の研究6 近現代編Ⅱ』清文堂、1983年)。このうち③④は、『竹々原幸朗著作集 第1巻』(社会評論社、2010年) に再録。

⁶ 佐山融吉: 1889年～没年不詳、東京府出身。1904年早稲田大学文学科卒、同年東京帝国大学理科大学人類学選科入学 (06年退学)、愛媛県私立北予中学校、北海道庁立小樽中学校、東京府私立商工中学校の教員を経て、台湾総督府臨時台湾旧慣調査会補助委員 (1912年から一時免職期をはさんで1919年まで)、旧慣調査会補助委員 (1919年～25年) として台湾先住民族の調査に従事。台湾から東京へ戻ってまもない1926年夏、兄夫婦の佐山専一・静江が帯広に一時滞在していた関係から吉田巖と面識を得る。書翰のやりとりは1920年代から60年代におよび、「遺稿資料」所収の台湾関係者の記録の中では最も長期にわたる。主な編著書に、臨時台湾旧慣調査会『蕃族調査報告書』(全8冊、1913-1921年。最後の2冊 (1920-21) は台湾総督府蕃族調査会より刊行)、佐山融吉・大西吉寿『生蕃伝説集』(杉田書店、1923年)。(主な典拠:『台湾総督府報』『台湾総督府公文類纂』『公文雑纂』『吉田巖遺稿資料』)

⁷ 安倍明義: 1891年～1951年、福島県出身。1911年福島県立相馬中学校卒、13年台湾総督府国語学校小学師範部卒、同年甲種公学校教諭の教員免許状取得、25年小学校本科教員免許状取得。馬蘭公学校、都歴公学校の訓導・校長を経て、19年台東庁視学。台湾総督府視学官、教科書編修事務嘱託等を歴任したほか、勤務地の台東を中心として全島の地名や先住民言語の調査研究に従事した。主な編著書に『蕃語研究』(蕃語研究会、1930年)、『台湾地名研究』(蕃語研究会、1938年) がある。また、『台湾教育』『社会事業の友』『南方土俗』などの島内発行雑

誌に台東庁管内の先住民族の生活状態や言語・風習に関する記事を寄稿している。なお、1925年8～9月には、学事視察として北海道・樺太へ出張し、旭川・近文、釧路・春採、真岡・多蘭泊のアイヌ集落や学校を訪れ、その記録を雑誌『台湾教育』に連載している（「樺太旅行談」第293号、1926年10月、「樺太及北海道の教育の一端とアイヌ人」第294号、1926年12月、「樺太旅行（続）」第296～297号、1927年2月～3月）。1927年の吉田の台湾学事視察の際には、台東庁視学として管内を案内している。（主な典拠：『台湾総督府報』『台湾総督府公文類纂』『吉田巖遺稿資料』）

⁸ 山本英雄：1898年～没年不詳、大阪府出身。1919年台湾総督府国語学校公学師範部甲科卒、同年甲種公学校教諭の教員免許状取得。以後20年間にわたり、玉里公学校、新城公学校、薄薄公学校等の花蓮港庁管内公学校にて先住民族および漢民族の初等教育に従事。30年花蓮港庁視学、38年高等官8等、39年依願免本官。この間、1924年6～7月に学事視察として北海道へ出張し、道庁の紹介を得て帯広の吉田巖を訪問している。その後、退職する1930年代まで吉田と書翰や児童作品の交換が続く。（主な典拠：『台湾総督府報』『台湾総督府公文類纂』『吉田巖遺稿資料』）

⁹ 本目録と同時に、吉田巖の「台湾学事視察旅行」に関わる主要な資料を翻刻・刊行予定である。あわせて参照いただきたい。北村嘉恵編『吉田巖の「台湾学事視察旅行」関係資料』帯広叢書別冊（帯広市教育委員会、2014年）。

¹⁰ 吉田巖が自身の著作や自身に関わる文献・報道をまとめた、「吉田巖著作年表」、「吉田巖身辺関係記事被掲載資料年表」、「吉田巖著作稿本年表」、「秩父宮殿下行啓関係吉田巖身辺記事新聞集」。これらの目録は、小川前掲書が指摘するように、吉田巖の著作と関係資料の全貌をうかがう重要な手がかりとなる。また、吉田は、発信・受信の記録を「通信簿」として集積しているほか、文書以外についても、蒐集した物品、写真、絵葉書（未使用）や、「下賜品」を「吉田巖蔵品目録」としてまとめている。

¹¹ 村瀬岩尾「はしがき」前掲『吉田巖伝記資料 帯広市社会教育叢書No.9』。

¹² 道内発行新聞の調査にあたっては、「遺稿資料」を手がかりにするとともに、主に以下の目録を参照した。小川正人・山田伸一編『十勝毎日新聞（1920～1939年）掲載アイヌ関係記事：目録と紹介（1）・（2）』（『帯広百年記念館紀要』第19号、2001年・第20号、2002年）、小川正人編『『室蘭毎日新聞』掲載アイヌ関係記事：目録と紹介（1）・（2）』（『アイヌ民族博物館研究報告』第8号、2004年・第9号、2006年）、小川正人編『『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事（1901～1942年）：目録と紹介』（北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書6、2010年）、河野本道編『アイヌ史新聞年表 小樽新聞』（大正期2・昭和期1）編（國學院大學北海道短期大学部コミュニティカレッジセンター、2008年）、北海道立図書館編『北海道地方新聞所在目録』（改訂第2版、北海道立図書館、2009年）。

¹³ 台湾島内発行の新聞・雑誌において内地からの視察者に関する記事は頻繁に見られるが、最も発行部数の多かった『台湾日日新報』に吉田の台湾視察に関する記事は見当たらない。ローカルな情報に特徴のある『東台湾新聞』や『台南新報』については、当該時期の所蔵機関を未確認である。『台湾教育』等の雑誌においても吉田の台湾先住民学校視察を取り上げた記事は見いだせなかった。

¹⁴ この点に関わって、「被抑圧民衆・民族をトータルに把握する視点」の重要性を早い時期から見据えていた竹ヶ原が、その後の研究において、アイヌ教育と台湾先住民教育との対比や関連づけを急ぐのではなく、個別実証研究を蓄積しつつアイヌ教育史の通史叙述を深化させてきたことの意味は小さくないと考える。

資料目録

凡例

1. 本目録は、帯広市図書館所蔵の「吉田巖遺稿資料」所収の台湾関係資料、および、吉田巖の台湾学事視察旅行に関する公共機関所蔵の新聞記事の目録である。
2. 本目録は、帯広市図書館の資料整理・保存状況をふまえて、以下の項目ごとに資料を分類したうえで、原則として、資料の作成された時期順ないし作成者の50音順に配列した。ただし、簿冊状の資料については現状の順序に配列した。

- I 文書 (i 台湾学事視察旅行関係/ ii 吉田巖の草稿・稿本/ iii 児童作品)
- II 図書・雑誌 (i 吉田巖の著作/ ii その他の著作)
- III 書翰 (i 発翰/ ii 来翰)
- IV 名刺
- V 新聞記事
- VI その他 (i 写真/ ii 器物)

このうち、「I-i 台湾学事視察旅行関係」については、さらに、「A 公文書類/ B 草稿・覚書類/ C 蒐集物・受贈品類/ D 証票類」の4項目に分類して配列した。

3. 資料名は、原則として原資料の表記にしたがった。表題のない資料については、吉田巖が作成した『吉田巖蔵品目録』や帯広市図書館の作成した目録を参照して〔 〕内に表題を付した。
4. 書翰には、吉田巖による「発翰」(草稿・控えを含む)および吉田巖宛の「来翰」を掲載した。来翰については、差出人氏名、作成年月日、作成場所、種別(はがき、絵はがき、封書)、主な内容、備考、資料番号を記載した。作成時期を内容等から推定した場合には、日付の後ろに「*」を付した。
5. 本目録に掲載した「箱番号」「コピー製本番号」「整理番号」とは、帯広市図書館が「吉田巖遺稿資料」、および、そのコピー製本に付したものである*。番号が付されていない資料については、当該欄に「-」を記載した。
6. 『帯広市社会教育叢書』『帯広叢書』として翻刻・公刊されている資料については、備考欄に書名と掲載巻号を略記した(例:『愛郷誌料』帯広叢書 No.1)。これらの帯広叢書は、吉田巖の著作として別掲しないこととした。
7. 帯広市図書館所蔵資料については所蔵機関情報を省略し、他の機関が所蔵する資料についてのみ所蔵機関を記載した。
8. 北村編『吉田巖の「台湾学事視察旅行」関係資料』(帯広叢書別冊、帯広市教育委員会、2014年)に翻刻テキストを載録した資料については、目録番号に「*」を付した。

* ①「箱番号」は、遺稿資料が帯広市図書館へ寄託された当初に原資料に付された整理番号である。帯広市図書館が作成した目録（旧）、および、前掲小川正人編『吉田巖書誌』所収の「帯広市図書館所蔵吉田巖遺稿資料の概要」は、この「箱番号」に準拠している。②「コピー製本番号」は、原資料のコピー製本に付された番号である。各冊の目次に掲載されている資料の番号は、上記「箱番号」に準拠している。③「整理番号」は、帯広市図書館における現在の原資料の整理状況を反映したものである。「封筒」（水色、黄色、青色）、「青箱」、「ファイル」（はがき、絵はがき、封書、写真）など、現在の収蔵・配列順に番号が付されている。①「箱番号」と②「コピー製本番号」はおおよそ対応しているが、③「整理番号」はこれらと対応していない。煩瑣にはなるが、調査・検索の便宜上、できる限り3つの番号を掲載することとした。

目録 番号	資料名	作成時期	作成者	形態	備考		整理番号
【1 文書】							
【1-i 台湾学事視察旅行関係】							
【1-i-A 公文書類】							
1	身分証明書	1926年8月18日	吉田巖			40	65 水封100
2	〔台湾学事調査出張命令〕	1927年5月17日	北海道庁		『吉田巖伝記資料』（帯広叢書No.9）所収。	-	-
3	昭和二年 台湾旅行	1926年11月-27年11月	吉田巖	こより綴り	表紙に「昭和二年 台湾旅行」と鉛筆書。	40	65 水封100
3-1	台湾学事調査復命ニ関スル件〔控〕	1927年9月5日	吉田巖	〔河西部公立日新尋常小学校〕原紙	【1-i-A-3-28a】と同一内容。本文中「別冊復命書」の写しにあたるのが【1-i-1】。添附の謄写物は欠。	40	65 水封100
3-2	土人小学校教員出張ニ関スル件	1927年5月18日	河西支庁長 那須正夫	〔北海道庁加西支庁〕原紙	公文「教第五二六号」。「別紙」は欠。	40	65 水封100
3-3a	教員学事視察出張方認可申請〔控〕	1926年11月9日	吉田巖	〔河西部公立日新尋常小学校〕原紙	公文「伏第三〇号」	40	65 水封100
3-3b	学事視察出張方認可申請〔控〕	1926年11月9日	吉田巖	〔河西部公立日新尋常小学校〕原紙	【1-i-A-3-3a】の添附文書。	40	65 水封100
3-4	〔発給控 北海道庁属小柳藤太郎宛〕	1926年11月26日	吉田巖	原紙		40	65 水封100
3-5	〔発給控 台湾總督府文教局学務課長宛〕	1926年11月26日	吉田巖	原紙		40	65 水封100
3-6	〔発給控 北海道庁属小柳藤太郎宛〕	1927年1月9日	吉田巖	無罪紙		40	65 水封100
3-7	〔発給控 新威、吉野、玉里各学校長宛〕	1927年1月9日	吉田巖	〔至誠堂特製〕原紙		40	65 水封100
3-8	〔発給控 佐山融吉宛〕	1927年1月9日	吉田巖	〔至誠堂特製〕原紙		40	65 水封100
3-9	〔発給控 台湾總督府文教局学務課長宛〕	1927年1月9日	吉田巖	原紙		40	65 水封100
3-10	〔発給控 新威、吉野、玉里各学校長宛〕	1927年3月11日	吉田巖	〔「野村紙店製」〕原紙		40	65 水封100
3-11	〔発給控 台湾總督府文教局学務課長宛〕	1927年3月1日	吉田巖	無罪紙		40	65 水封100
3-12a	学事視察出張方認可申請ニ関スル件〔控〕	1926年12月27日	吉田巖	〔河西部公立日新尋常小学校〕原紙	公文「伏第三七号」	40	65 水封100
3-12b	学事視察出張方認可申請〔控〕	1926年12月27日	吉田巖	〔至誠堂特製〕原紙	【1-i-A-3-12a】の添附文書。	40	65 水封100
3-13	学事視察出張方認可申請〔控〕	1927年4月27日	吉田巖	無罪紙、〔「の野村紙店製」〕原紙		40	65 水封100
3-14	〔発給控 北海道庁属小柳藤太郎宛〕	1927年5月18日	吉田巖	〔「の野村紙店製」〕原紙		40	65 水封100
3-15	〔発給控 新威、吉野、玉里各学校長宛〕	1927年5月27日	吉田巖	〔「の野村紙店製」〕原紙		40	65 水封100
3-16	〔発給控 台湾花蓮港庁長中田秀造宛〕	1927年5月27日	吉田巖	〔「野村特製」〕原紙		40	65 水封100
3-17	〔発給控 台湾總督府文教局学務課長宛〕	1927年5月27日	吉田巖	無罪紙	【1-i-A-3-22】と同一内容。	40	65 水封100
3-18	〔発給控 台湾總督府理番課長宛〕	1927年5月27日	吉田巖	無罪紙		40	65 水封100

目録番号	資料名	作成時期	作成者	形態	備考	整理番号
3-19	〔発翰控 台湾花蓮港行宛〕	1927年5月27日	吉田巖	無罪紙		40 65 水封100
3-20	〔発翰控 台湾台東行宛〕	1927年5月27日	吉田巖	無罪紙		40 65 水封100
3-21	台湾ニ学事調査ノタメ出張拜命ニツキ陳述事項	1927年5月27日	吉田巖	「野村特製」原紙		40 65 水封100
3-22	〔発翰控 台湾總督府文教局学務課長宛〕	1927年5月27日	吉田巖	無罪紙	【1-1-A-3-17】と同一内容。	40 65 水封100
3-23	視察日程経過要覧	1927年7*月	吉田巖	「野村特製」〔の野村紙店製〕原紙		40 65 水封100
3-24	〔発翰控 北海道庁風小柳藤太郎宛〕	1927年7月28日	吉田巖	「野村紙店製」原紙		40 65 水封100
3-25	〔発翰控 北海道庁風小柳藤太郎宛〕	1927年8月4日	吉田巖	「野村紙店製」原紙		40 65 水封100
3-26	台湾学事調査復命書提出期限二閱スル件	1927年8月16日	吉田巖	「河西部公立日新尋常小学校」原紙	公文「日第四二号」	40 65 水封100
3-27	〔発翰控 北海道庁風小柳藤太郎宛〕	1927年9月2日	吉田巖	〔の野村紙店製〕原紙		40 65 水封100
3-28a	台湾学事調査復命二閱スル件〔控〕	1927年9月5日	吉田巖	無罪紙	【1-1-A-3-1】と同一内容。本文中「別冊復命書」の写しにあたるのが【11-11】。	40 65 水封100
3-28b	北海道日新尋常小学校校長視察日程	1927年6月 日*	台湾總督府内務局学務課	謄写版	【1-1-A-3-28a】の添付文書。	40 65 水封100
3-29	〔台湾学事調査復命書（写）寄贈の件〕	1927年9月5日	吉田巖	無罪紙	北海道庁学務部教育課宛	40 65 水封100
3-30	〔台湾学事調査復命書（写）寄贈の件〕	1927年9月5日	吉田巖	無罪紙	十勝教育会副会長近田留四郎宛	40 65 水封100
3-31	〔発翰控 北海道庁風小柳藤太郎宛〕	1927年9月11日	吉田巖	無罪紙		40 65 水封100
3-32	〔発翰控 河西支庁視学高橋綱三郎宛〕	1927年9月11日	吉田巖	無罪紙		40 65 水封100
3-33	〔台湾学事調査復命書（写）贈呈の件〕	1927年9月11日-14日	吉田巖	無罪紙、謄写版	十勝六部二町十六村長宛	40 65 水封100
3-34	〔発翰控 河西支庁視学高橋綱三郎宛〕	1927年9月14日	吉田巖	無罪紙		40 65 水封100
3-35	〔台湾学事調査復命書（写）発送の件〕	1927年9月14日	吉田巖	無罪紙	十勝教育会副会長近田留四郎宛	40 65 水封100
3-36	台湾学事調査復命書（写）受領ノ件	1927年9月14日	河西郡大正村長 鈴木重次	「北海道河西郡大正村役場」原紙		40 65 水封100
3-37	〔台湾学事調査復命書（写）配付の件〕	1927年9月12日	北海道庁風小柳藤太郎	「謄案原紙（乙）/北海道庁」原紙		40 65 水封100
3-38	〔台湾学事調査復命書（写）受領の件〕	1927年9月16日	中川郡農野牛尋常小学校校長 桜井忠	「中川郡豊頃村役場」原紙		40 65 水封100
3-39	出版物発行届〔控〕	1927年9月20日	吉田巖	無罪紙	内務大臣鈴木喜三郎宛	40 65 水封100
3-40	〔発翰控 北海道庁風小柳藤太郎宛〕	1927年9月24日	吉田巖	〔の野村紙店製〕原紙		40 65 水封100
3-41	請求書〔控〕	1927年11月15日	吉田巖	無罪紙	河西支庁長北崎賢宛	40 65 水封100

目録番号	資料名	作成時期	作成者	形態	備考		整理番号
【I-B 草稿・覚書類】							
1	〔地図（手書き）〕	1927年1月*	吉田巖	ハートロン巻紙	予定ルートを書き込んだ台湾全図。1927年1月14日付佐山融吉書翰記載のルート等を参照。	40	水封100
2	〔地図（手書き）〕	1927年1月*	吉田巖	ハートロン巻紙	地図3種（台湾先住民分布図、花蓮港略図、台湾全島略図）。1927年1月19日付山本英雄書翰記載の視察箇所紹介等を参照。	40	水封100
3	〔台湾視察手帖 1〕	1927年1月-6月	吉田巖	黒革表紙	1927年1月旅行準備の記録から同年6月12日までの旅行記録。資料名は「吉田巖蔵品目録」による。	-	水封16
4	〔台湾視察手帖 2〕	1927年6月-7月	吉田巖	茶色表紙	1927年6月13日から6月30日までの旅行記録および復命書執筆準備のメモ等。資料名は「吉田巖蔵品目録」による。	-	水封101
5	〔手帖 台湾談、秩父宮奉迎送〕	1927年	吉田巖	赤褐色表紙	『吉田巖蔵品目録』に「台湾談 秩父宮奉迎送」と内容摘記あり。作成時期は同日録による。	-	水封36
6	〔手帖〕	1927年-29年	吉田巖	黒つや表紙	『吉田巖蔵品目録』に「台湾談。我が生活、アイヌ語、地名。文芸談」と内容摘記あり。作成時期・形態は同日録による。	-	-
7	〔手帖（部分）〕	1927年ごろ*	吉田巖	表紙なし、手帳の一部	『帯広弘教青年会ニテ講演大要（前後不同）』はか種々のメモ。	-	水封24
8	〔旅程表〕	1927年7月*	吉田巖	「OSAMA」罫紙	1927年5月27日～6月7日分の記録。閲覧用コピー製本にて確認。未見。	40	65
9	〔旅行中献立表〕	1927年7月*	吉田巖	「OSAMA」罫紙	1927年5月27日～6月7日分の記録。	40	65
10	〔礼状宛名一覧〕	1927年7月*	吉田巖	「OSAMA」罫紙		40	65
11	〔購入物品一覧〕	1927年7月*	吉田巖	「OSAMA」罫紙		40	65
12	〔購入絵はがき一覧〕	1927年7月*	吉田巖	「OSAMA」罫紙		40	65
13	〔メモ〕	1927年7月*	吉田巖	「HAKURYU」罫紙		40	65
14	〔メモ〕	1927年7月*	吉田巖	「HAKURYU」罫紙		40	65
15	〔台湾学事調査復命書（写）寄贈先一覧〕	1927年7月*	吉田巖	「の紙店製」原稿用紙	裏面に「台湾教育／特色」はかメモあり。【I-B-4】中に「印象、感激」の事項として「奥田、蓬萊阿校長ノ談」と記載あり。	40	65
16	〔台湾学事調査復命書（写）寄贈先一覧〕	1927年9月	吉田巖	罫紙	道内町別・学校種別配付数一覧（計207部）、発送日記載あり（9/11-14）。【I-D-65～81】と照合可能。	40	65
17	〔台湾視察「ニツキ」講演要旨〕	1927年7月*	吉田巖	「帯広市史編纂原稿用紙」綴り	『吉田巖蔵品目録』中に「関連記事あり。『帯広市史編纂原稿用紙』（活用）していることから、後年に転記・合綴したものと考えられる。	40	65
18	〔帯広弘教青年会ニテ講演大要〕	1927年10月*	吉田巖	「帯広市史編纂原稿用紙」綴り	『吉田巖蔵品目録』中に「関連記事あり。『帯広市史編纂原稿用紙』（活用）していることから、後年に転記・合綴したものと考えられる。	40	65
19	〔アイヌ学校教師の目に映じたる生蕃人〕	1927年*	吉田巖	「野村紙店製」原稿用紙綴り	【I-B-18】中の項目「蕃人」の内容とはほぼ同一。	18	26
20	〔台湾学事関係文献資料〕		吉田巖	「十勝支庁」罫紙	末尾に「計22点 総重量850g」と記載あり。刊行年はいずれも1925～27年。台湾視察時に蒐集した文献の一部を旅先から自宅へ記送した際の記録の転記か、あるいは、蒐集文献の一部を後年整理した際の記録か。	-	-

目録番号	資料名	作成時期	作成者	形態	備考	整理番号
【I-i-C 蒐集物・受贈品類】						
1	花蓮港宁新城公学校 種族別部落別児童一覧	1927年4月30日	花蓮港宁新城公学校	2色刷謄写版		40 65 水封100
2	〔新城公学校児童作品（図画）〕	1927年6月10日	花蓮港宁新城公学校児童	画用紙	図画6点。同校視察時に山本英雄公学校長より受贈。【I-i-III】に再掲。	28 38 黄封873
3	〔新城公学校児童作品（習字）〕	1927年6月10日	花蓮港宁新城公学校児童	半紙	習字7点。同校視察時に山本英雄公学校長より受贈。【I-i-III】に再掲。	28 38 黄封874
4	〔角板山蕃童教育所児童作品（習字）〕	1927年6月19日	新竹州角板山蕃童教育所児童	半紙	習字15点。同教育所視察時に受贈。【I-i-B-4】中に「日曜にかはらず寄宿生四十名を集め算術読方話方唱歌と順次指揮の下にやつた。ちやんと歌うが出来てをるのだ。即席の書方をおくられた」(1927年6月19日 来)と記載がある。【I-i-III】に再掲。	28 38 黄封874
5	身体検査単名票	1927年*	花蓮港宁	活版	「種族」学校名「渡台年月」等の項目あり(未記入)。	40 65 -
6	花蓮港果年象表 自明治四十四年／至大正十四年 拾五年間	1928年	〔花蓮港測候所〕	謄写版	1927年6月8日花蓮港測候所訪問。	40 65 水封100
7	台東鉄道全通記念 蕃曲	1928年	台東庁庶務課 撰	活版(2つ折り)	表に「台東線列車時刻」裏に「吉が里 馬蘭蕃曲」「勸勉 馬蘭蕃曲」「夜学会修了の歌 卑南蕃曲」平和な蕃社 卑南蕃曲の数字謄。同一資料3点。	40 65 水封100、青箱39
【I-i-D 証票類】						
1	〔領収証〕	1927年5月31日	須磨温泉(神戸)		宿代、食事代	40 65 -
2	特殊(通常／小包)郵便物受領証	1927年5月31日	〔郵便局〕(神戸)		受取人：吉田テイ、差出人宿所：元町・大黒屋方 吉田巖。	40 65 -
3	名刺	1927年5月31日	大黒屋旅館(神戸)		「乗客荷物取扱(日本郵船会社/大阪商船会社/欧米各国汽船)専属」	40 65 -
4	〔領収証〕	1927年6月4日	旅館松壽園(北投)		宿代	40 65 -
5	〔受領証〕	1927年6月4日	旅館松壽園(北投)		茶代。【I-i-B-3】中に女中の談話記述あり。	40 65 -
6	〔領収証〕	1927年6月5日	旅館振津館(台北)		宿代	40 65 -
7	〔受領証〕	1927年6月5日	旅館振津館(台北)		茶代	40 65 -
8	〔領収証〕	1927年6月6日	旅館振津館(台北)		宿代	40 65 -
9	〔受領証〕	1927年6月6日	旅館振津館(台北)		茶代。【I-i-B-3】中に女中の談話記述あり。	40 65 -
10	〔領収証〕	1927年6月9日	旅館近江屋(花蓮港)		宿代、食事代	40 65 -
11	〔受領証〕	1927年6月9日	旅館近江屋(花蓮港)		茶代	40 65 -
12	〔領収証〕	1927年6月11日	香川旅館(馬太鞍)		宿代。【I-i-B-3】中に旅館主人の談話記述あり。	40 65 -
13	〔領収証〕	1927年6月11日	旅館璞石閣(玉里)		宿代	40 65 -
14	〔受領証〕	1927年6月11日	旅館璞石閣(玉里)		茶代	40 65 -
15	〔領収証〕	1927年6月12日	台東ホテル(台東)		宿代、食事代	40 65 -

目録 番号	資料名	作成時期	作成者	備考		整理番号
16	〔受領証〕	1927年6月12日	台東ホテル (台東)	祝儀	40	65 -
17	〔受領証〕	1927年6月13日	台東ホテル (台東)	来代	40	65 -
18	〔領収証〕	1927年6月14日	旅館近江屋 (花蓮港)	宿代、食事代	40	65 -
19	〔受領証〕	1927年6月14日	旅館近江屋 (花蓮港)	来代	40	65 -
20	連絡乗車船券	1927年6月14日	〔常磐丸〕 (花蓮港)	〔花蓮港より蘇澳まで〕	40	65 -
21	〔領収証〕	1927年6月17日	鹽田館 (台中)	宿代	40	65 -
22	〔受領証〕	1927年6月17日	鹽田館 (台中)	来代	40	65 -
23	〔領収証〕	1927年6月18日	塚廻家旅館 (新竹)	宿代	40	65 -
24	領収証	1927年6月18日	塚廻家旅館 (新竹)	来代	40	65 -
25	領収書	1927年6月19日	薰風館 (角板山)	宿代、【I-I-B-4】中に記念押毫画帖に関する記述あり。	40	65 水封100
26	領収書	1927年6月19日*	大溪郡角板山交易所 (角板山)	工芸品等、〔台湾警察協会新竹支部〕購紙。	40	65 -
27	〔領収証〕	1927年6月20日	台湾總督府商品陳列館 (台北)	ステッキほか	40	65 -
28	商品札	1927年6月20日*	〔台湾總督府商品陳列館〕 (台北)	〔椰子水牛頭杖/2.50/中島〕	40	65 水封100
29	商品札	1927年6月20日*	〔台湾總督府商品陳列館〕 (台北)	〔椰子水牛頭杖/2.50/中島〕	40	65 水封100
30	商品札	1927年6月20日*	〔台湾總督府商品陳列館〕 (台北)	〔台付巻莫入/1.80/西村新次郎〕	40	65 水封100
31	商品札	1927年6月20日*	〔台湾總督府商品陳列館〕 (台北)	〔三ッ入丸盆/1.90/西村新次郎〕	40	65 -
32	名刺	1927年6月20日	台湾藤製品商会 中島嶺 (台北)		40	65 -
33	領収書	1927年6月20日	台湾藤製品商会 (台北)	黒綿杖ほか	40	65 -
34	領収書	1927年6月20日	台湾藤製品商会 (台北)	クロカキステッキほか	40	65 -
35	〔領収証〕	1927年6月20日	旅館摂津館 (台北)	宿代	40	65 -
36	〔受領証〕	1927年6月20日	旅館摂津館 (台北)	来代	40	65 -
37	領収証	1927年6月23日	官幣大社宮崎宮社務所 (福岡)	銅板	40	65 -
38	〔領収証〕	1927年6月23日	宮小路写真館 (太宰府)		40	65 -
39	拝受証	1927年6月23日	朝日館 (博多)	来代	40	65 -
40	〔領収証〕	1927年6月23日	朝日館 (博多)	宿代	40	65 -

目録 番号	資料名	作成時期	作成者	備考	整理番号
41	受領証	1927年6月24日	太宰府神社社務所（太宰府）	梅花会寄付	40 65 -
42	御買上票	1927年6月24日	玉屋呉服店（福岡）		40 65 -
43	御買上票	1927年6月24日	玉屋呉服店（福岡）		40 65 -
44	御買上票	1927年6月24日*	玉屋呉服店（福岡）	「食堂引合」の朱印。	40 65 -
45	〔領収証〕	1927年6月24日	玉屋呉服店（福岡）	銘仙	40 65 -
46	拝受証	1927年6月24日*	丸屋旅館支店（下関）	茶代	40 65 -
47	〔領収証〕	1927年6月24日	丸屋旅館支店（下関）	宿代	40 65 -
48	〔領収証〕	1927年6月26日	三橋亭本店（上野）	「カルビス/ヒヤシカウヒウ」	40 65 -
49	御買上票	1927年6月26日	松坂屋（上野）		40 65 -
50	輪王寺献饌之証	1927年6月27日*	日光社寺□□（日光）	「三仏堂/東師堂/大猷廟」	40 65 水封100
51	御買上票	1927年6月29日*	札幌丸井今井呉服店（札幌）	発行年月日欄には「7-29-27」とあるが「6-29-27」か。	40 65 -
52	〔領収証〕	1927年6月29日	札幌丸井今井呉服店（札幌）	人形、巻入、お盆ほか	40 65 -
53	御買上票	1927年6月29日	札幌丸井今井呉服店（札幌）		40 65 -
54	領収書	1927年6月29日	五番館（札幌）		40 65 -
55	〔受領証〕	1927年6月29日	旅館山形屋（札幌）	心付	40 65 -
56	〔受領証〕	1927年6月29日	旅館山形屋（札幌）	手当	40 65 -
57	精算書	1927年6月29日	旅館山形屋（札幌）	宿代	40 65 -
58	〔列車食堂案内 晩茶〕	1927年6月*	浅田屋列車食堂(函館棧橋～釧路)	表に「紅茶、コーヒー、其の他一草料理のお支度が出来ました/お逗留のまに食堂へお越し下さい」等の案内、裏に「コーヒー、10銭、ほかメニュー。」	40 65 -
59	〔列車食堂案内 昼食〕	1927年6月*	浅田屋列車食堂(函館棧橋～釧路)	表に「御昼食の用意が出来ました/どうぞ食堂車へお出下さい」等の案内、裏に「函館側開列車発着時刻」。	40 65 -
60	〔列車食堂案内 夕食〕	1927年6月*	浅田屋列車食堂(函館棧橋～釧路)	表に「御夕食の用意が出来ました/こみ合はめ内にお早くお出下さい」等の案内、裏に「函館側開列車発着時刻」。	40 65 -
61	領収証	1927年8月4日	清田商店（帯広）	印刷物代内金。「吉田巖日記14」（帯広叢書No.33）中に関連記事あり。	40 65 -
62	領収証	1927年8月22日	清田印刷所（帯広）		40 65 -
63	領収証	1927年9月2日	清田印刷所（帯広）	「吉田巖日記14」（帯広叢書No.33）中に関連記事あり。	40 65 -
64	〔領収証〕	1927年9月11日	野村紙店（帯広）	ハトロン大封筒。	40 65 -
65	特殊（通常／小包）郵便物受領証	1927年9月12日	〔郵便局〕（帯広）	受取人：大正村役場。差出人：吉田巖（以下、差出人はすべて吉田巖）。大正村長よりの受領書が【1-1-A-3-26】。郵便物受領証【65～81】は【1-1-B-16】と照合可能。	40 65 -

目録番号	資料名	作成時期	作成者	形態	備考	整理番号
66	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月12日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 御影村役場。	40 65 -
67	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月12日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 芽室村役場。	40 65 -
68	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月12日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 川西村役場。	40 65 -
69	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月13日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 本別村役場。	40 65 -
70	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月13日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 新得村役場。	40 65 -
71	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月13日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 豊頃村役場。	40 65 -
72	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月13日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 鹿追村役場。	40 65 -
73	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月13日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 人舞村役場。	40 65 -
74	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 土幌村役場。	40 65 -
75	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 浦幌村役場。	40 65 -
76	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 西足寄村役場。	40 65 -
77	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 音更村役場。	40 65 -
78	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 幕別村役場。	40 65 -
79	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 大津村役場。	40 65 -
80	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 広尾村役場。	40 65 -
81	特殊 (通常/小包) 郵便物受領証	1927年9月14日	〔郵便局〕 (帯広)		受取人: 池田町長。『吉田蔵日記14』(帯広蔵書No.33)中に発送作業完了の記事あり。	40 65 -
【I-II 吉田蔵の草稿・稿本】						
1	番入と珍命名	1924年7月15日	吉田蔵	『東京原稿用紙A』	稿本「日新随筆」(1934年12月)所収の「古瀬春秋」中の一文。のち、「日新随筆」(帯広蔵書No.2)所収。日本変遷の談話。『吉田蔵日記13』(帯広蔵書No.32)に関連記事あり。	59 94 -
2	美しいものなあに△△	1926年8月16日	吉田蔵	『東京原稿用紙A』	稿本「日新随筆」(1934年12月)所収の「古瀬春秋」中の一文。のち、「日新随筆」(帯広蔵書No.2)所収。佐田蔵吉の談話。	59 94 -
3	番童の芝居	1931年5月20日	吉田蔵	『東京原稿用紙A』	稿本「日新随筆」(1934年12月)所収の「古瀬春秋」中の一文。のち、「日新随筆」(帯広蔵書No.2)所収。	59 94 -
4	楽器 (ムックル)	1934年10月4日	吉田蔵	『日章』原稿用紙	稿本「愛郷春秋」(1960年8月8日)所収。のち、「愛郷春秋」(帯広蔵書No.6)所収。「高砂族のローボ」に言及あり。	83 128 -
5	生蕃伝説集 読後感	1938年7月9日	吉田蔵	『日章』原稿用紙	稿本「愛郷春秋」(1960年8月8日)所収の「読むにまかせて」中の一文。のち、「愛郷春秋」(帯広蔵書No.6)所収。佐田蔵吉・大西吉壽「生蕃伝説集」(杉田書店、1923年)の感想。	83 128 -
6	続 玉信一束		吉田蔵	『KYOKUTO「コクヨ」原稿用紙	稿本「愛郷春秋」(1960年8月8日)所収。のち、「愛郷春秋」(帯広蔵書No.6)所収。山本英雄、森要人ほかの未編集。	83 128 -
7	森要人との和歌のやりとり	1946年9月8日	吉田蔵	『文華三三号』原稿用紙綴り		89 135 水封110

[illegible]

目録 番号	資料名	作成時期	作成者	形態	掲載誌	箱番号	整理番号
【Ⅱ 図書・雑誌】							
【Ⅱ-i 吉田巖の著作】							
1	台湾学事観察復命書（写）	1927年9月10日	吉田巖	活版	発行：帯広・清田田圃所、主な目次「1. 台湾学事観察一般/2. 初等教育機関施設調査の事例（台湾人公学校例/華人公学校例/内地人小学校例）/3. 附録」。全105頁。『吉田巖日記14』（帯広義書No.33）中に関連記事あり。		青箱39
2	台湾の旅	1927年9月20日	吉田巖	活版	発行：帯広・清田田圃所。1927年5月27日帯広出発から6月30日帯広帰着までの旅行記録。『心の碑』（巻1：東京・北海道出版社、1935年）所収。目次「（上）車窓略見/（中）台湾点描/（下）燕界踏本帰郷」。『吉田巖日記14』（帯広義書No.33）中に関連記事あり。	文献資料2	青箱39
3	高砂国土産	1935年7月20日	吉田巖	活版	『心の碑』（巻1：東京・北海道出版社、1935年）所収。目次「（上）車窓略見/（中）台湾点描/（下）燕界踏本帰郷」。『吉田巖日記14』（帯広義書No.33）中に関連記事あり。		
4	台湾まで	1927年12月25日	吉田巖	活版	『相馬郷』第19号、東京・相馬郷友会、115-122頁。『台湾の旅』所収の短歌を転載する旨、編者の説明あり。	文献資料2	青箱32
5	故森要人兄を弔す	1929年12月28日	吉田巖	活版	『相馬郷』第23号、東京・相馬郷友会、82頁。	文献資料2	青箱32
【Ⅱ-ii その他の著作】							
1	台湾宜蘭だより	1918年12月10日	中田秀造	活版	『相馬郷』第5号、東京・相馬郷友会、37-39頁。	文献資料2	青箱32
2	台湾台中より	1920年2月25日	三田四郎	活版	『相馬郷』第7号、東京・相馬郷友会、39-42頁。	文献資料2	青箱32
3	台湾及琉球の音楽に就きて	1923年3月25日	田辺尚雄	活版	発行：東京・啓明会事務所、「財団法人啓明会第八回講演集」。	啓明会 関係資料	青箱36
4	台湾新竹より	1924年5月31日	金谷雄貫	活版	『相馬郷』第12号、東京・相馬郷友会、25-26頁。	文献資料2	青箱32
5	ハトランの一夜	1924年12月1日	森要人	活版	『相馬郷』第13号、東京・相馬郷友会、42-45頁。	文献資料2	青箱32
6	台湾たより	1925年12月10日	佐藤広	活版	『相馬郷』第15号、東京・相馬郷友会、23頁。	文献資料2	青箱32
7	常夏の国から	1925年12月10日	吉成新太郎	活版	『相馬郷』第15号、東京・相馬郷友会、23-24頁。	文献資料2	青箱32
8	生民 高砂民教化叢書 第二編	1927年5月8日	太田準悟	活版	発行：愛知・高砂民教化叢書刊行会/代表者 太田準悟。	86	青箱34
9	短言	1927年7月15日	福迫忠亮	活版	『相馬郷』第18号、東京・相馬郷友会、65頁。	文献資料2	青箱32
10	高砂島便り	1929年12月28日	加藤重喜	活版	『相馬郷』第23号、東京・相馬郷友会、17-21頁。	文献資料2	青箱32
11	短言	1929年12月28日	中田秀造	活版	『相馬郷』第23号、東京・相馬郷友会、50-51頁。	文献資料2	青箱32
12	久方振り故郷を訪ふ	1930年12月20日	中田秀造	活版	『相馬郷』第25号、東京・相馬郷友会、12-17頁。	文献資料2	青箱32
13	台湾霧社事件に就て	1930年12月20日	中田秀造	活版	『相馬郷』第25号、東京・相馬郷友会、64-72頁。国民新聞社主催により同社講堂にて行った講演の大意を講演者の同意を得て掲載する旨、編者の説明あり。	文献資料2	青箱32

目録 番号	資料名	作成時期	差出人（発信地）	主な内容	整理番号
【Ⅲ 書籍】					
【Ⅲ-i 発翰】					
1	絵はがき	1922年1月1日	吉田巖（帯広）	森要人宛。年賀、短歌。宛先不明で返送。裏面写真「北海道立立日新尋常小学校」。	アルバム
2	絵はがき	1927年6月1日	吉田巖（神戸）	日新尋常小学校児童一同宛。神戸出港前に投函。裏面写真「（神戸）巨輪岸壁に遊ぶ神戸港の盛観」。	エ
3	はがき	1927年6月1日	吉田巖（神戸）	吉田テイチ宛。神戸出港前に投函。	ハ
4	絵はがき	1928年1月1日	吉田巖（帯広）	台湾総督府文政局学務課長野口敏治宛。年賀。描き損じ。裏面写真「伝説の村（忍路付近）撮影者 緒方重義氏」。	エ
5	書簡下書き	1931年6月17日	吉田巖（帯広）	台湾新竹州知事野口敏治宛。新竹州知事就任祝辞。	水封543
【Ⅲ-ii 来翰】					
1-1	はがき	1927年1月20日	青柳鶴治（帯広）	台湾出張、講演開催を新聞紙上拝見。伏見弘三氏より出張一時見合せと伝承。明後日午後伺いたし。	ハ
1-2	はがき	1927年3月8日	青柳鶴治（帯広）	台湾出発、まだ見合せ中と伝承。御出港の際は立寄られたし。	ハ
2-1	封書	1927年6月20日	安倍明義（台東）	鄭重なる御礼状恐縮。出発汽車時刻の勘違いにより見送りできずる悔滅念かつ失礼。自動車賃御届忌縮。「南北相呼応して未開人教育の為」御奮闘御助力を願う。安倍明義は相馬中学校卒（1911年卒）。	フ
2-2	封書	1927年8月13日	安倍明義（台東）	結構なる御品恐縮。暑中見舞御礼。	フ
2-3	絵はがき	1928年8月1日	安倍明義（台東）	暑中見舞御礼。先般新高登山、「兎寮」に妨げられ「霧社より能高越え。裏面写真「霧社タロウ」温泉場」。	エ
2-4	はがき	1929年5月20日	安倍明義（台北）	異動通知	ハ
2-5	はがき	1930年1月29日	安倍明義（台北）	先般は面倒なる御願に種々取調通報御礼。弟は都合により豊頃にてひとまづ落着き、機を見て父國に出づる模様。	ハ
2-6	はがき	1934年1月1日	安倍明義（台北）	年賀、はんこのみ。	ハ
2-7	はがき	1936年1月1日	安倍明義（台北）	年賀、はんこのみ。	ハ
3	はがき	1930年2月24日	荒卯三郎（台北）	御書面に懐旧の情景し得ず。渡台後十年、平常藩山を駆け廻る少年として相変らず頃馳。時々曹根田、佐藤向君と相互親交。内地等へは何時帰れるや見込もつかず。荒卯三郎は相馬中学校の同郷生（1903年卒）。	ハ
4	はがき	1928年1月3日	天野亮一（花蓮港・新城）	早々賀状恐縮。	ハ
5-1	はがき	1928年1月5日	池田中平（花蓮港・玉里）	年賀	ハ
5-2	はがき	1929年1月1日	池田中平（花蓮港・玉里）	年賀、印刷文のみ（短歌）。	ハ
5-3	はがき	1931年1月1日	池田中平（花蓮港・玉里）	年賀、印刷文のみ（短歌）。	ハ
5-4	はがき	1933年1月1日	池田中平（花蓮港・玉里）	年賀、印刷文のみ（短歌）。	ハ
5-5	はがき	1934年1月1日	池田中平（花蓮港・玉里）	年賀	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人(発源地)	主な内容	整理番号
5-6	はがき	1935年1月1日	池田中平(花蓮港・玉里)	年賀	ハ
5-7	はがき	1936年1月1日	池田中平(花蓮港・玉里)	年賀、印刷文のみ(短歌)。『書翰自叙伝 拾遺』(帯広叢書№18)所収。	ハ
6	はがき	1928年1月4日	井上正男(花蓮港)	年賀、はんこのみ。	ハ
7-1	絵はがき	1928年1月22日	緒方足男(花蓮港)	賀状御礼。昨年から花蓮港小学校勤務。裏面写真(台湾八景太魯閣峡)タッキリ断崖道路状御礼。	エ
7-2	はがき	1928年7月30日	緒方足男(花蓮港)	暑中見舞	ハ
8-1	封書	1926年12月1日	小倉三之助(幕別)	今回風俗視察のため台湾出張を新聞紙上に非見。台中県彰化市に兄在住、是非立寄られたし。	フ
8-2	封書	1928年4月6日	小倉三之助(芽室)	兄病没通知。	フ
9	はがき	1928年1月8日	小倉乙吉(台中・彰化)	年賀、印刷文のみ。	ハ
10-1	はがき	1924年9月19日	奥村純太郎(花蓮港・鳳林)	過般礼状に対して却って丁重なる御言葉と何よりの御品感謝の至り。本日当地の絵葉書御送いたしたく。	ハ
10-2	はがき	1925年5月20日	奥村純太郎(花蓮港・鳳林)	貴校要覧御礼。	ハ
10-3	封書	1927年1月21日	奥村純太郎(花蓮港・玉里)	今回当地方視察うれしく待つ。問合せ事項への回答。一、花蓮港玉里への交通・経路、運賃。二、気調と衣服、要領具。三、特段の旅行上の注意なし。四、紅頭嶼は台東庁ゆえ不詳。山道君は目下吉野小学校、山本君は新城公学校。吉野は内地人農村として見処。玉里には小学校と本島人の公学校と番人の公学校があり、小生のは小学校。	フ
11	絵はがき	1927年9月28日	喜多章明(帯広)	『台湾の旅』御礼。とくに短歌は胸を打つ。裏面写真(十勝岡正村)札内方面ノ部落上。	エ
12-1	はがき	1928年1月4日	木村凡夫(新竹・桃園)	年賀	ハ
12-2	はがき	1928年7月31日	木村凡夫(新竹・桃園)	暑中見舞	ハ
13	絵はがき	1928年3月1日	金田一京助(東京・本郷)	葉書御礼。諸君への玉輪諸誌感謝。裏面写真(拓殖博覧会に於ける台湾番人(東京人類学会発行))。	エ
14	絵はがき	1937年3月19日	郷清吉(台北)	この度「常夏の楽土」台湾視察、台北日之丸旅館にて。印刷文のみ。裏面写真(日月潭旅館湖濱樓)。	エ
15	封書	1927年10月1日	小林孝次郎(帯広)	脚未深き「台湾の旅」重調御礼。早速拝読。風土、気候、人情、文芸、生物など、普通地理書では類いえないものばかり。卓越なる御感想、讀はしき御誄にも敬服、いすれ拜眉、更に御話承り度。	フ
16	封書	1927年10月1日	小林林蔵(平壤)	「台湾の旅」有り難く頂戴。殊に巻末の御歌の詩想豐富なるに敬服。会社の工場が台湾にもあり、渡台の機会待つ。別便にて朝鮮風俗エハガキ少々送付、教育上の御参考。短歌4首。	フ
17-1	はがき	1927年1月4日	小柳藤太郎(札幌)	今般木道旅も優秀なる教員を地方費にて有景視察の事に内定。毎年数名派遣の予定。本年度は二月上旬派遣の予定。貴下も其の一人と内定。なるべくそれ以前は休業せずに授業を続け待命されたし。	ハ
17-2	はがき	1927年5月12日	小柳藤太郎(札幌)	貴般管外出張の件、過般高橋視察より日程送付あり。旅費相当御するが、従来より一部本人負担の例もあるのです。詳細は同視察の指示を受けられたし。	ハ
17-3	封書	1927年5月16日	小柳藤太郎(札幌)	本日台湾視察決定命令あり。出発前談の要あり来りされたし。折り返し日時の回報を。旅費は本庁より前例に基き2000円支給に決定。いすれ支度より正式通隊あり。	フ
17-4	封書	1927年5月24日	小柳藤太郎(札幌)	結城の品車御送禮。通出人の各新聞通政記者は「生業の教育状況視察は今回初めての企」と各社に口電、方法等につき質問あり。出までに今回の視察に対する覚悟等を取りまとめて陳述の備えをされたし。出・得・退・退各名の新聞は相当重大視。	フ

目録番号	資料名	作成時期	差出人（発信地）	主な内容	整理番号
17-5	封書	1927年7月22日	小柳藤太郎（札幌）	米行時料金の払込明細。現金手帳用の記録。学校長会議は昭和四年度予算編成前に召集予定。校舎タン張り如何。復命書印刷費増額の見込ゆえ所要金額回報された。過日開河支庁管内を視察し得るところあり。	フ
17-6	封書	1930年5月 日	小柳藤太郎（札幌）	図書の件。貴下委任待遇過早の件、何れ後便で詳述。	フ
17-7	封書	1930年6月3日	小柳藤太郎（札幌）	星崎昇幹の件内申あり。委任待遇につき最善の努力。去る三月中中国書配給により幾分充実と推察。開進小学校の人物。	フ
17-8	絵はがき	1930年12月22日	小柳藤太郎（札幌）	喪中年賀遠慮。裏面写真「函館港」（平和記念東京博覧会北海道出品協会発行）。	エ
17-9	はがき	1932年1月2日	小柳藤太郎（札幌）	年賀	ハ
17-10	封書	1934年11月2日	小柳藤太郎（札幌）	「旧土人出版品蒐集」について。	フ
17-11	絵はがき	1935年1月1日	小柳藤太郎（札幌）	年賀。裏面写真「北海道庁立室蘭高等女学校開校記念、記念スタンプ」開校記念・大正八年九月廿五日。	エ
17-12	封書	1936年9月20日	小柳藤太郎（札幌）	訪問時の配慮深謝。徳富先生。	フ
18	はがき	1927年9月20日	佐藤孝三郎（函館）	台湾御視察に関する印刷物御恵送奉謝。	ハ
19-1	はがき	1893年7月14日	佐藤広（福島・鹿島）	佐藤広は相馬中学校の同期生（1903年卒）。	ハ
19-2	はがき	1893年7月17日	佐藤広（福島・鹿島）		ハ
19-3	はがき	1918*年1月25日	佐藤広（福島）	菊池先生へ記念品贈呈に因し御質問、御寄附に感謝。来2月10日当校寄宿舎にて祝賀会と贈呈式、祝辞ないし歌の送付願う。	ハ
19-4	はがき	1923年1月4日	佐藤広（台南）	年賀	ハ
19-5	はがき	1927年8月8日	佐藤広（台北）	過般本島御視察時ご来校なるも会見の機を失し残念至極。台南にて森氏より消息承った。後機を待つ。	ハ
20-1	封書	1926*年10月16日	佐山静江（帯広*）	今月末帰京予定。封書欠。	フ
20-2	はがき	1927年8月6日	佐山専助／静江（帯広）	見舞葉書拝受。7月初頭避暑に来帯。9月下旬頃帰京予定。	ハ
20-3	絵はがき	1939年1月1日	佐山静江（熱海）	年賀。裏面写真「熱海名所 東洋一月那山火トネル」。	エ
20-4	はがき	1930年1月1日	佐山専助／静江（東京・麻生）	年賀。印刷文。	ハ
20-5	はがき	1931年1月1日	佐山専助／静江（東京・麻生）	年賀。印刷文。	ハ
20-6	はがき	1934年1月1日	佐山専助	年賀。印刷文。	ハ
21-1	絵はがき	1926年10月3日	佐山融吉（東京・青山）	過日は御案内により約21年振に愛奴の生活状態を視察し。先生は御幸福の事と羨し。小生は「生者」と別れて全く縁なき事。皮なしあり。ただ旅日記をもつてを。裏面「敵に薫る 酒井白澄 / 日本美術院第十三回展覧会出品」。	エ
21-2	絵はがき	1926年10月3日	佐山融吉（東京・青山）	先頭は御多忙の故御用儀。珍うしき石につきては早速松村氏に報告。福京後暇なく、近日中に人類学報告へ参り委細話すべく。昨日兄も帰京。御芳情深謝。未永く御交遊を。裏面「杏 森山菱英 / 日本美術院第十三回展覧会出品」。	エ
21-3	はがき	1926年12月30日	佐山融吉（東京・青山）	絵葉書及伏古田土人地調査資料一部拝受。殊にアイヌ婦人の絵葉書は興味引く。御参考のため絵葉書御送りもります。正月中に銀ブラにてなにか見当るはす。	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人 (発信地)	主な内容	整理番号
21-4 封書		1927年1月14日	佐山融吉 (東京・青山)	台湾御視察、誠に結構。森丑之助の自殺以来台湾にも希通と云ふ人なし。研究的調査にて台湾一巡したものは今では島居氏と小生のみ。旅行通順を御参考まで。最も有印なる通順は台湾総督府理蕃課にて教えるる1. 総督府理蕃課 2. 台北府街、北投温泉、台湾神社、劍潭寺、3. 角板山、「蕃人教育」の最も進歩したる所、4. 阿里山、高山隧道、新高山、5. 台南市街、赤崁楼、6. 台湾人師範学校、6. 阿緬よりマササヤヤ社、ババワン社、カピヤン社、短春から海路台東へ。多分和面順は断念。冬期は陸路台東へ(巨港蕃署にて入蕃許可証、または総督府理蕃課の紹介)。7. 台東にて馬蘭社、卑南社、8. 花蓮港馬太鞍社、太巴・社、9. 花蓮港薄々公学校、10. 知北、昭大番ウライ、温泉、公学校、番社。一ヶ月あれば島内は充分視察可。	7
21-5 はがき		1927年8月2日	佐山融吉 (東京・淀橋)	無事御帰国入郷至極。兄は本年も帯広帰り。御暇の際に立寄り、旅行話御聴かせ願う。兄もかつて台湾在住。私は本年何所へも行かず台湾蕃界の旅日記を十年計画にて書き始む。	ハ
21-6 はがき		1928年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-7 はがき		1928年7月26日	佐山融吉 (東京・淀橋)	暑中見舞深謝。毎日新聞にて台湾・東・北海道の温度比較。本年も兄は帯広行き。ラチオ機断行。生徒さんにラチオを懸いた事ない方があれば御出を。	ハ
21-8 はがき		1928年8月28日	佐山融吉 (帯広)	私事急用にて来帯。台湾視察談を同に参上致かね残念。御暇なら御立寄を。	ハ
21-9 はがき		1928年9月3日	佐山融吉 (帯広)	先日は雨中御見舞、結構な品御恵与、深謝。生徒連れてラチオ御聴き下され度。『吉田蔵日記14』(帯広叢書No.33)に因連記事あり。	ハ
21-10 はがき		1929年1月*日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀。8月知京後、御大興、京都出張、正月も忙しく、賀詞遅れ詫ひ。	ハ
21-11 絵はがき		1929年1月31日	佐山融吉 (東京・淀橋)	雪景絵葉書沢山御惠贈深謝。スタンプ「多摩楼/昭和3.11.4/参拝記念」。裏面写真「高尾山ケーブルカー」電車運行。	ハ
21-12 はがき		1929年7月29日	佐山融吉 (東京・淀橋)	暑中見舞深謝。夏休を利用して蕃界旅行記と伝説集改版を企て。出来上れば御目に。	ハ
21-13 はがき		1929年12月31日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-14 はがき		1931年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-15 はがき		1932年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-16 はがき		1933年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-17 はがき		1934年7月*日	佐山融吉 (東京・淀橋)	暑中見舞	ハ
21-18 はがき		1934年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-19 はがき		1935年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-20 はがき		1936年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-21 はがき		1937年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-22 はがき		1938年1月1日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀	ハ
21-23 絵はがき		1939年1月2日	佐山融吉 (東京・淀橋)	年賀。裏面写真「大阿蘇山」山頂第四火口の噴煙」。	エ
21-24 はがき		1955年1月28日	佐山融吉 (横浜)	年賀	ハ
21-25 はがき		1955年12月18日	佐山融吉 (東京・荻窪)	『愛郷史料』拜受。	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人（発信地）	主な内容	整理番号
21-26	はがき	1956年10月3日	佐山融吉（横浜）	『東北海道アイヌ風土記資料No.2』拝受。早速通読。暖巾の話に昔しのはれ四十年も若返り。友人の勧めにより、書界踏査記とでも申すべきもの執筆。何時かは御愛覧に供すべく。	ハ
21-27	はがき	1957年1月1日	佐山融吉（横浜）	年賀	ハ
21-28	はがき	1958年1月1日	佐山融吉（横浜）	年賀。踏査記は2、3年後。	ハ
21-29	はがき	1959年1月1日	佐山融吉（横浜）	年賀	ハ
21-30	はがき	1960年1月1日	佐山融吉（横浜）	年賀	ハ
21-31	はがき	1960年2月4日	佐山融吉（横浜）	『愛郷往来』拝受。御礼遅延御謝。先生に倣い、踏査記を書いて居るが遅々。	ハ
21-32	はがき	1961年1月7日	佐山融吉（横浜）	『東北海道アイヌ古事風土記資料愛郷春秋』拝受。著展伝説篇土俗篇の様なものを纏めて居るが中々進まず。若かり方法の一種としてあせらず気長に。	ハ
22	はがき	1927年8月1日	白井柳治郎（札幌）	台南よりの御り御礼。拝読のうえ視察旅を拝聴したい気がする。山本英雄先生より便りあり。『書翰自叙伝』（帯広叢書No.16）所収。	ハ
23-1	絵はがき	1928年1月11日	菅虎吉（台南）	昨年12月末退官。昨年飛行機に乗って新高山越え。裏面写真「屏東公園」「飛行場」。	エ
23-2	はがき	1929年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀。昨年屏東を引上げ台南へ。	ハ
23-3	はがき	1930年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
23-4	はがき	1931年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
23-5	はがき	1932年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
23-6	はがき	1933年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
23-7	はがき	1934年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
23-8	はがき	1936年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ（児童の作文）。『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書No.18）所収。	ハ
23-9	はがき	1938年1月1日	菅虎吉（台南）	年賀、印刷文のみ。	ハ
24-1	封書	1930年2月10日	曾根田謙治（台北）	曾根田謙治は相馬中学校の同期生（1903年卒）陸士卒。	フ
24-2	はがき	1931年1月3日	曾根田謙治（台北）	年賀	ハ
24-3	はがき	1931年3月13日	曾根田謙治（台北）	異動挨拶。台北高等学校から高崎師範区司令部員へ。	ハ
25-1	はがき	1927年8月16日	高岡義雄（台北）	結構なる参考資料御志謝御礼。	ハ
25-2	はがき	1928年1月1日	高岡義雄（台北）	年賀	ハ
25-3	はがき	1928年8月22日	高岡義雄（台北）	暑中見舞返礼	ハ
25-4	封書	1932年1月1日	高岡義雄（台北）	年賀	フ
26	はがき	1927年10月13日	高橋正男（帯広）	珍書「台湾の旅」御志謝感謝。新世界の知識を得るに恰好のものと存候。	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人(発信地)	主な内容	整理番号
27	絵はがき	1927年5月24日	竹内連平(札幌)	台湾に御旅行とのこと、いつ頃札幌御通過おしらせを。	エ
28-1	封書	1920年10月8日	武口軍治(台北)	父武口守三の葬儀通知。武口守三は札幌中学校の同門生(1903年卒)。	フ
28-2	封書	1920年11月25日	武口軍治(台北)	葬儀礼状	フ
28-1	はがき	1928年8月17日	田中米蔵(台中)	暑中見舞多謝。	ハ
28-2	はがき	1930年1月1日	田中米蔵(台中)	年賀、印刷文のみ。	ハ
28-3	はがき	1931年1月1日	田中米蔵(台中)	年賀、印刷のみ。	ハ
29	はがき	1928年1月6日	長岡秀夫(花蓮港・玉里)	年賀、昨年10月花蓮港小学校より玉里小学校へ。	ハ
30	はがき	1928年1月4日	中川孫次郎(台中・彰化)	年賀	ハ
31-1	絵はがき	1927年8月8日	中田秀造(花蓮港)	先般は鹿々御訪問のところ不在にて欠礼。裏面写真「花蓮港神社(花蓮港風景の四)(並木学生堂発行)」。	エ
31-2	はがき	1928年1月1日	中田秀造(花蓮港)	年賀、印刷文のみ。	ハ
31-3	絵はがき	1928年8月9日	中田秀造(花蓮港)	時候挨拶。裏面写真「台湾花蓮港街公会堂」。	エ
31-4	はがき	1929年1月1日	中田秀造(花蓮港)	年賀、印刷文のみ。	ハ
32	はがき	1928年1月1日	中野勝馬(台北)	年賀、田藤南支那対岸視察の命を受け、厦門、汕頭、香港、広東と舊郷の旅。	ハ
33-1	はがき	1928年1月5日	西谷寅吉(花蓮港・馬太鞍)	年賀	ハ
33-2	はがき	1928年8月10日	西谷寅吉(栃木・足利)	暑中見舞。今春退職。(花蓮港発はがき1通、栃木発封書2通・絵はがき2通、京都発はがき3通)	ハ
34	絵はがき	1927年8月5日	樋口要司(台東)	好参考品御礼。裏面写真「飛行場」「屏東公園」。	エ
35	はがき	1928年1月1日	牧野富治郎(台中)	年賀、印刷文のみ。	ハ
36-1	はがき	1931年8月24日	松隈生雄(鹿児島)	旅行時の親切なる御案内御礼。	ハ
36-2	封書	1931年10月24日	松隈生雄(鹿児島)	『書翰自叙伝 総編』(帛広叢書No.17)所収。	フ
36-3	はがき	1932年4月5日	松隈生雄(福岡)	今般福岡県農林技手非命同県庁内穀物検査所に勤務。	ハ
36-4	封書	1932年4月21日	松隈生雄(福岡)	御芳書・冊子拝受。台湾の御紀行も拝見。『書翰自叙伝 総編』(帛広叢書No.17)所収。	フ
36-5	はがき	1932年12月1日	松隈生雄(福岡)	穀物検査所から福岡へ転任挨拶。	ハ
36-6	封書	1933年7月20日	松隈生雄(福岡)		フ
36-7	はがき	1934年1月1日	松隈生雄(福岡)	年賀、印刷文のみ。	ハ
36-8	はがき	1941年5月3日	松隈生雄(新竹)	4月22日付東京朝日新聞にて御写真拝見。昨年より曾て御旅行記を載いた常夏の島に聖職を奉じ居候。『書翰自叙伝 総編』(帛広叢書No.17)所収。	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人（発信地）	主な内容	整理番号
37-1	はがき	1956年1月10日	馬淵東一（東京）	『愛郷資料』御志贈御礼。	ハ
37-2	はがき	1956年10月3日	馬淵東一（東京）	『日新隨筆』御志贈御礼。	ハ
37-3	はがき	1957年1月2日	馬淵東一（東京）	謹賀新年	ハ
37-4	はがき	1959年1月5日	馬淵東一（東京）	『愛郷草子』御志贈御礼。	ハ
38-1	はがき	1927年1月21日	三嶋桂五郎（帯広）	旅費の事わかりましたので御通知。台北・その他の宿泊費。角坂山往復交通費。	ハ
38-2	はがき	1929年1月1日	三嶋桂五郎（帯広）	年賀、印刷文のみ。	ハ
39-1	封書	1927年9月7日	湊増吉（花蓮港）		フ
39-2	絵はがき	1928年8月13日	湊増吉（花蓮港）	暑中見舞。毎度御芳書深謝。裏面写真（台湾八景太魯閣峽）アヨの清流」。	エ
39-3	絵はがき	1934年1月1日	湊増吉（花蓮港）	年賀。裏面写真（仙巖橋附近の絶景）。	エ
40	はがき	1927年8月7日	宮澤矢作（花蓮港・新城）	暑中見舞御礼、天野校長は旅行中。	ハ
41	はがき	1928年1月1日	村富俊平（花蓮港）	年賀	ハ
42-1	はがき	1906年1月1日	森要人（福島・鹿島）	柴酒舎主人	ハ
42-2	はがき	1906年 月17日	森要人（福島・鹿島）		ハ
42-3	絵はがき	1907年1月6日	森要人（福島・鹿島）	年賀。裏面写真「HIBIYA PARK」。	エ
42-4	封書	1907年3月16日	森要人（福島・鹿島）		フ
42-5	封書	1907年9月26日	森要人（福島・鹿島）		フ
42-6	はがき	1907年12月3日	森要人（福島・鹿島）		ハ
42-7	絵はがき	1908年1月1日	森要人（福島・鹿島）	年賀。裏面写真「川上大将銅像」「楠公銅像」「西郷銅像」。	エ
42-8	封書	1908年9月21日	森要人（福島・鹿島）		フ
42-9	封書	1908年10月22日	森要人（福島・鹿島）		フ
42-10	はがき	1909年1月1日	森要人（福島・鹿島）	年賀	ハ
42-11	はがき	1910年1月1日	森要人（福島・鹿島）	年賀	ハ
42-12	封書	1910年1月23日	森要人（福島・鹿島）		フ
42-13	絵はがき	1910年9月4日	森要人（福島・鹿島）	夏講習の光景。裏面写真「教員講習会松川舟遊会光景(其二)」。	エ
42-14	はがき	1912年1月3日	森要人（福島・鹿島）	年賀	ハ

目録 番号	資料名	作成時期	差出人 (発信地)	主な内容	整理番号
42-15 はがき		1913年1月3日	森要人 (福島・鹿島)	年賀	ハ
42-16 封書		1916年1月6日	森要人 (広島・尾道)	『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-17 はがき		1917年1月1日	森要人 (広島・尾道)	年賀	ハ
42-18 はがき		1918年1月1日	森要人 (広島・尾道)	年賀	ハ
42-19 絵はがき		1919年1月1日	森要人 (千葉・木更津)	裏面写真「明治神宮(全京)」。	エ
42-20 封書		1920年1月19日	森要人 (山口・熊毛)	『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-21 はがき		1924年7月28日	森要人 (台南)		ハ
42-22 封書		1927年1月20日	森要人 (台南)	台湾旅歴案、全島略図。『愛郷春秋』(帯広叢書№6)・『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-23 封書		1927年4月10日	森要人 (台南)	親友再会を指折り数へて待ちし甲斐なく中止無念。『愛郷春秋』(帯広叢書№6)・『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-24 封書		1927年8月14日	森要人 (台南)	20年ぶりの再会感慨。『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-25 封書		1928年4月16日	森要人 (台南)	大腸カタル、腎臓炎。『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
42-26 封書		1929年6月18日	森頭 (台南)	父森要人訃報、印刷カード。	フ
42-27 封書		1929年6月18日	森頭 (台南)	父森要人訃報、印刷カード。	フ
43-1 絵はがき		1927年8月15日	門馬常蔵 (花蓮港)	珍島郵送手御礼。行長端宇像に貫兄の御話を伝達。裏面写真「花蓮港庁」。	エ
43-2 はがき		1930年7月27日	門馬常蔵 (花蓮港)	時候挨拶	ハ
43-3 はがき		1934年1月6日	門馬常蔵 (澎湖)	年賀、印刷文のみ。	ハ
44 封書		1927年12月12日	山崎恒一 (札幌)	復命書写寄附贈。『書翰自叙伝』(帯広叢書№16)所収。	フ
45-1 はがき		1925年1月1日	山道萬寿亀 (花蓮港)	年賀	ハ
45-2 はがき		1926年10月7日	山道萬寿亀 (花蓮港)	立派な絵葉書也贈御礼。去る8月に転任。	ハ
45-3 封書		1927年1月19日	山道萬寿亀 (花蓮港)	東部台湾の交通、氣候。北海道庁技師浮田房之助氏は先年親しく当地方を視察。	フ
45-4 はがき		1927年8月15日	山道萬寿亀 (花蓮港)	百姓は今一番多忙な時。	ハ
45-5 はがき		1928年1月8日	山道萬寿亀 (花蓮港)	北海の雪れき御患贈御礼。	ハ
45-6 はがき		1928年8月2日	山道萬寿亀 (花蓮港)	本年は米価下落に収穫の元氣なし。	ハ
46 はがき		1927年5月21日	山本儀三郎 (白老)	「台湾生蕃教育状況御視察」に出張の由新聞紙上にて承知、斯道の為め慶賀の至り、いづれご出発か。	ハ
47-1 封書		1924年9月20日	山本英雄 (花蓮港・馬太鞍)	去る7月突然訪問御礼。別途「蕃人児童ノ成績品」を送付。『愛郷春秋』(帯広叢書№6)・『書翰自叙伝 拾遺』(帯広叢書№18)所収。	フ

目録番号	資料名	作成時期	差出人（発信地）	主な内容	整理番号
47-2	封書	1924年9月20日	山本英雄（花蓮港・馬太鞍）	児童作品（習字・図画）。『愛郷春秋』（帯広叢書№6）・『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書№18）所収。	黄封871
47-3	はがき	1925年2月3日	山本英雄（花蓮港・馬太鞍）	先般の御高麗に對していすれ愚説御目にかけたく。『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書№18）所収。	ハ
47-4	絵はがき	1925年4月15日	山本英雄（花蓮港・馬太鞍）	相変わらず「蕃人教育」に微力傾注。「貴地旧土人教育ト同ジル區精神ノ陶冶ニハ一タ苦勞」。裏面写真「台北師範学校」。	エ
47-5	絵はがき	1925年5月27日	山本英雄（花蓮港・馬太鞍）	好材料御座御座。去る5月教員大会にて旧土人教育視察談を發表。聴衆に多大の印象。裏面写真「鹿寮せる蕃人の踊」。	エ
47-6	はがき	1926年1月11日	山本英雄（花蓮港・馬太鞍）	年賀返礼	ハ
47-7	はがき	1926年10月21日	山本英雄（花蓮港・新城）	珍しい御写真真御忠贈御礼。本年4月猫公小学校より新設新城公学校へ転勤。当校は「タイヤル族、アミ族、熟蕃、本島人の四種族を取容」にかかる学校は台湾にて当校のみ。別途写真二葉送付。『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書№18）所収。	ハ
47-8	はがき	1927年1月1日	山本英雄（花蓮港・新城）	年賀。印刷文のみ。	ハ
47-9	封書	1927年1月19日	山本英雄（花蓮港・新城）	東部台所の交通。玄帳。祝祭経路助言。『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書№18）所収。	フ
47-10	はがき	1927年7月20日	山本英雄（花蓮港・新城）	御視察で得た御高見を復命書御整理係に拝賜致度。「旧土人ト蕃人トノ間ニ何等カノ融通ヘル点」あるべく、教育法等についても「殖シト同様ノ逢着点」を見出しうるかと思考。	ハ
47-11	はがき	1927年9月10日	山本喜代子（花蓮港・新城）	結構なる品忠贈御礼。只今主人小公学校校長会議出席の為台北出張中。	ハ
47-12	はがき	1928年1月1日	山本英雄（花蓮港・新城）	年賀	ハ
47-13	はがき	1928年2月24日	山本英雄（花蓮港・新城）	「アイヌ民話」御寄贈御礼。永く家宝と致し度。	ハ
47-14	はがき	1928年7月31日	山本英雄（花蓮港・新城）	暑中見舞。印刷文のみ。	ハ
47-15	はがき	1929年1月1日	山本英雄（花蓮港・新城）	印刷文・絵。	ハ
47-16	はがき	1929年3月4日	山本英雄（花蓮港・新城）	本校第一回卒業生として故郷品屋監委会同、御位見高成織品出品お願いに對し早速優秀なる作品多数御忠贈御礼。教育上有益なる資料と確信。	ハ
47-17	はがき	1929年4月27日	山本英雄（花蓮港・新城）	前年度末無理な御願に多数の貴重なる成織品御忠送。おかげで展覧会も多大の効果。先般本校絵葉書作製、別途一部忠送。児童の努力により校庭整う。	ハ
47-18	はがき	1929年8月25日	山本英雄（花蓮港・新城）	今夏五年ぶり内地帰省。やはり「蕃人教育が本職」。	ハ
47-19	はがき	1930年3月4日	山本英雄（花蓮港）	花蓮港片視学兼花蓮港公学校訓導科昇任、1日着任。	ハ
47-20	絵はがき	1931年7月22日	山本英雄（花蓮港）	裏面写真「飛行機より見たる他 花蓮港街（其二）」。	エ
47-21	絵はがき	1931年10月19日	山本英雄（花蓮港）	今般学校とともに御勇退。先般新聞紙上にて「旧土人学校卒業」の報「旧土人教育の発展の進展上の局結」と思ふ。当地の蕃人教育もやがては此処に到達すべき使命あり。『書翰自叙伝 拾遺』（帯広叢書№18）所収。裏面写真「花蓮港高等女学校「園芸実習」」寄附舎修築。	エ
47-22	絵はがき	1932年7月31日	山本英雄（花蓮港）	暑中見舞御礼。4月より花蓮港接統の当番社内に勤務。裏面写真「拜殿前景」「大正十二年四月十七日皇太子殿下御手植油杉」明治三十四年十月三十日北白川宮大妃殿下御手植松。	エ
47-23	はがき	1934年1月1日	山本英雄（花蓮港）	年賀、印刷文のみ。	ハ
47-24	はがき	1935年7月22日	山本英雄（花蓮港）	『心の碑』御紹介御礼。1部予約。本年4月また花蓮港片視学昇任、学校と異なり休暇もななく今夏は忙し。	ハ

[illegible]

目録 番号	氏名	肩書き・備考		
【IV 名刺】				
1	青木健一	台湾總督府地方理事官／台南州教育課長		
2	阿倍明義	台湾總督府庁視学兼台湾總督府庁風／台東庁勤務		
3	天野亮一	新城尋常高等小学校長		
4	池田申平	台湾公学校訓導／公立玉里第二公学校長		
5	石神久勝	高雄州産業技手高雄州技手／高雄州立農業試験場／高雄州屏東街		
6	梅谷光貞	新竹州知事		
7	大井馨	台湾總督府交通局書記／鉄道部工務課		
8	大事孫作	高雄州警部／鳳山郡警察課勤務		
9	岡部元三郎	花蓮港庁巡査／研海支庁勤務		
10	奥村純太郎	台湾公立公学校訓導／花蓮港庁鳳林公学校長		
11	小野正雄	台湾公立高等女学校校長兼台湾總督府視学官／台北第三高等女学校長		
12	小山慧	高雄州視学／内務部教育課		
13	菅虎吉	屏東公学校長正七位勲七等		
14	木原徳治郎	花蓮港庁林田小学校長		
15	木村凡夫	桃園郡視学		
16	窪田榮次郎	新竹州巡査部長巡査勲八等／大溪郡角板山巡視区監督		
17	研光利三郎	花蓮港庁巡査勲七等／巡査部長／研海支庁セガシ警察官吏駐在所勤務		
18	柴光治	花蓮港庁巡査勲七等／研海支庁北埔警察官吏派出所勤務		
19	杉本主二	台中公学校長		
20	助廣三郎	台湾總督府庁警部從七位勲八等／花蓮港庁研海支庁長		
21	高橋敬助	新竹州巡査／大溪郡角板山警察官吏駐在所勤務		
22	竹下六郎	台湾總督府庁風 *氏名の左右に「風高岡義雄」「高山長太郎」とペン書き込みあり。		
23	陳全永	台湾總督府風／文教局社会課		
24	鳥居龍藏	麻布区霞町21番地		

目録 番号	氏名	肩書き・備考		
25	長岡秀夫	花蓮港小学校長		
26	中川孫次郎	彰化郡視学		
27	中島常雄	区長／花蓮港庁吉野区		
28	中島貞澄	訓導／花蓮港庁大庄公学校長		
29	中野勝馬	台北市蓬来公学校長		
30	名和仁一	台湾總督府地方理事官／高雄州教育課長		
31	縄田圓次	彰化郡勤務		
32	原田芳之	新竹州郡属／大溪郡勤務		
33	船田定次郎	台湾公立公学校訓導／薄々公学校長		
34	星萬寿雄	台中市視学		
35	牧内憲五郎	公立馬太鞍公学校長／台湾花蓮港		
36	牧野富治郎	台中州視学		
37	松隈粹	新竹州郡属／大溪郡庶務課長		
38	湊増吉	台湾總督府庁属／花蓮港庁		
39	本野演暢	新竹州巡査／大溪郡角板山駐在所勤務		
40	森野石之助	台湾總督府地方警視／花蓮港庁警務課長		
41	門馬常藏	台湾花蓮港庁花蓮港街新城通		
42	門馬経祐	台湾總督府庁稅務吏		
43	山道萬寿亀	台湾公立小学校訓導／花蓮港庁豊田小学校長		
44	山本太郎	花蓮港庁玉里庄 *氏名の右肩に「マラワンスラ」とペン書き込みあり。花蓮港庁玉里下ラワン社頭目の子息。		
45	山本英雄	花蓮港庁猫公公学校長		
46	渡辺猛郎	高雄州郡視学／屏東郡勤務		

目録 番号	見出し	作成時期	掲載誌	備考		
【V 新聞記事】						
1*	吉田〔日〕新校長／蕃童学校視察	1926年11月30日	十勝毎日新聞	「遺稿資料」新聞切り抜き	-	-
2*	生蕃教育調査	1927年5月18日	旭川新聞	北海道立図書館所蔵。	-	-
3*	日新小学校長／台湾出張	1927年5月19日	十勝毎日新聞	「遺稿資料」新聞切り抜き	-	-
4*	〔消息〕	1927年5月29日	小樽新聞	「遺稿資料」新聞切り抜き	-	-
5*	愛奴研究の吉田先生が／生蕃研究の報告を発表	1927年9月13日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き	-	-
6*	新聞紹介 台湾学事復命書（写）	1927年9月18日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き	-	-
7	台湾の旅	1927年9月27日	十勝新報	「吉田巖身辺関係記事被島載資料年表」所載。	-	-
8	台湾行〔短歌〕	1927年10月11日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き。新得、落合、落部、湯ノ川温泉、津軽海峡	-	-
9	台湾行〔短歌〕	1927年10月2日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き。青森～神戸、瀬戸内	-	-
10	台湾行〔短歌〕	1927年10月4日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き。門司、基隆、北投	-	-
11	台湾行〔短歌〕	1927年10月5日	十勝新報	「遺稿資料」新聞切り抜き。花蓮港、台東、新竹	-	-
12*	帯広在伏古のアイヌ学校／吉田先生は校長さんで／ そうして小使さんだ	1927年10月14日	東京日日新聞 北海道・構太版	北海道立図書館所蔵。『吉田巖日記14』（帯広護書w33）に関連記事あり（1927年10月16日条）。	-	-
目録 番号	資料名			備考		
【VI その他】						
【VI-i 写真】						
1	アイヌと生蕃タイヤル族との楽器（口琵琶）			裏面貼付のシールに「一七四」と記載あり。 『吉田巖遺稿目録』所載。備考欄に「山本英雄氏より寄贈を受く（郵送）」、数量欄に「一束（四枚）」、名称欄に「第九十四号」とそれぞれ記載あり。未見。	-	アルバム
2	蕃女ハタオリ、糸ツムギ			同上	-	-
3	蕃女ト白杵			同上	-	-
4	蕃人喫煙			同上	-	-
5	釣橋光景			同上	-	-
6	蕃少女群 竹細工作業			『吉田巖遺稿目録』所載。備考欄に「昭和二年台南市錦町一丁目八十七番地 鳥羽亨真館より直接購入品、数量欄に「二束（十八枚）（五枚）」、名称欄に「第九十五号」とそれぞれ記載あり。未見。	-	-

目録番号	見出し	作成時期	掲載誌	備考		
7	蕃人舞踊 (円陣)			『吉田蔵藏品目録』所載。備考欄に「昭和二年台南市錦町一丁目八十七番地、鳥羽写真館より直接購入品」、数量欄に「二束(十八枚)」「五枚」,名称欄に「第九十五号」とそれぞれ記載あり。未見。	-	-
8	紅檜大神木			同上	-	-
9	蕃婦哺乳			同上	-	-
10	水牛乗蕃人群			同上	-	-
11	蕃女珠飾			同上	-	-
12	盛装の蕃男子 二名			同上	-	-
13	本島女子			同上	-	-
14	本島女子			同上	-	-
15	盛装蕃男子 一名			同上	-	-
16	蕃女ハタオリ、糸ツムギ			同上	-	-
17	蕃女の荷負ひ 二人			同上	-	-
18	蕃青年の円陣			同上	-	-
19	盛装の蕃男子			同上	-	-
20	石室前の蕃人栗搗			同上	-	-
21	盛装蕃女 (混血)			同上	-	-
22	蕃産品			同上	-	-
23	台東神社御祭礼			同上	-	-
24	釣橋上の蕃人			『吉田蔵藏品目録』所載。備考欄に「(一九二三)年九月二十二日附台湾山道万寿亀校長より郵送、贈呈受く」と記載あり。未見。	-	-
25	盛装の三蕃人			同上	-	-
26	蕃人の舞踊			同上	-	-
27	立てる蕃二少女			同上	-	-
28	立てる三蕃少女			同上	-	-
29	新城公学校職員児童			『吉田蔵藏品目録』所載(資料名「新城小学校」とあるのは「新城公学校」の誤記)。備考欄に「新城校長山本英雄氏より受く(台紙貼)」と記載あり。未見。	-	-
【VI-II 器物】						
1	高砂炭土俗品			『吉田蔵藏品目録』所載。数量欄に「23点」と記載あり。未見。	-	-